

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連の日本語ネットニュース「天健ネット」より

## レジャープロジェクト建設中

**レジャー観光潜水艇:**付家庄旅行観光潜水艇事業の予定投資総額は4.2億元。事業は主に観光潜水艇4艘、半潜水式豪華水上レストラン、豪華海底ホテル等を含む。年末主体事業の建設が完成し来年の前期には試運転に入る予定。

**黄金海岸国際レジャーセンター:**東は付家庄銀沙灘、沿浜海路から金沙灘海浜まで3.6キロメートルの海岸線沿いに位置し、面積は70万平方メートル余りにおよぶ。主に7星級ホテルなどを含む。予定投資総額は200億元で、すでに設計は完成している。

**西山湖公園:**同事業は紅旗道大西山水庫(西山湖)上遊荒漠区に位置する大連市政府大型民生公益事業である。事業の投資総額は2.3億元で、浜水景観区、生態研究区、科普考察区及び花木観賞区の四つに分かれている。現在まで基礎部分は完成済み。

**東方水城:**大連海昌集団は30億元を投入し4月20日より東方水城事業を正式に開始した。イタリアヴェネツィアの水城を再現し4キロメートルに及ぶ人工運河を建設する。同事業は7月より展示センターの使用が開始され2012年10月より使用される。

2011年5月17日

大連市では、今、レジャー開発も盛んに行われ、中国バブルの勢いはまだまだ止まらないことを主張するかのようだ。最近のニュースで、ヨーロッパのブランドアウトレットモールで5年間連続で、中国人が最も買い物をしたと報じられた。中国人の生活は、どんどん豊かになり、物欲が満たされた次には、必ずリゾートの時代がくると考えられているかのようだ。

大連市は、中国の東北地方の中で、古くから最もレジャー開発に力を入れている都市で、水族館、動物園、ゴルフ場など、伝統のあるレジャー施設が数多く存在している。

その要因の一つは、海に面していることだろう。中国では、海は珍しいものだ。地図を見ればすぐわかることだが、中国では、海を見ることもなく一生を終える人が今も数多くいる。海を見ることは、日本とは比べものにならないほど貴重なことで、「海を見る」ために、内陸部から大連へ来る人も少なくない。

大連の街中から車で20分ほど走ったところに美しい自然海岸があり、中でも「棒垂島」と呼ばれるエリアは、中国政府幹部が避暑に訪れる、国内でも有名なリゾート地である。今でも、夏になれば、北京から政府の要人が休暇で大連を訪れている。

大連市は、早くからその美しい海岸線を利用したレジャー開発を手掛けており、大連市の経済発展政策の重要な柱に据えてきた。このようなリゾート開発は、富裕層がますます増える中国の社会事情にはマッチしているものだ。

また、今、大連市では、外国人ではなく中国富裕層をターゲットにした6つ星・7つ星と自称する豪華ホテルの建設が盛んに行われており、内陸部からのリゾート長期滞在者を、ホテルの大きな収入源と見込んでいる。

今年末には、大連⇄瀋陽間の高速鉄道が開通し、1時間の距離になる。その何年か後には、長春、ハルピンと北へ北へつながり、北方からの観光客が増大することも大いに期待できる。大連市では、まだまだこのようなレジャー開発は続いていくだろう。